

三野連の入唐の時に、春日蔵首老の作る歌

六二番

ありねよし 対馬の渡り 海中に 幣取り向けて  
はや帰り来ね

山上臣憶良、大唐に在る時に、本郷を憶ひ

て作る歌

六三番

いざ子ども 早く日本へ 大伴の 三津の浜松  
待ち恋ひぬらむ

慶雲三年丙午、難波宮に幸す時に志貴皇子の

作らす歌

六四番

葦辺行く 鴨の羽がひに 霜降りて 寒き夕は  
大和し思ほゆ